

会長挨拶

郡 司 健 (大阪学院大学)

社会関連会計にとって、いわば特定主体（企業・社会組織）の社会-経済-環境の持続可能な発展は非常に重要な関心事である。しかも現代の社会-経済-環境要因は、たんに一国内におけるマクロ・ミクロ単位における問題にとどまらず、極めてグローバルな様相を帯びてきている。そのような多様かつ多彩な課題を抱えつつ、昨年10月には社会関連会計学会全国大会が日本大学で勝山進委員長のもとで開催され、スタディグループ「日本における社会関連会計研究」報告（大下勇二委員長）、自由論題8報告、記念講演会（(株)アバンティ・渡邊智恵子氏）、統一論題3報告および同ディスカッションと非常に盛大かつ充実した大会であった。6月の西日本部会は九州大学の小津稚加子委員長のもとで博多駅ビル会議場の会場が満席となり4件の興味深い報告に対しそれぞれ活発な議論がなされた。

7月の東日本部会は宮城大学の内田直仁委員長のもと南三陸町へ出かけ部会報告と講演会（南三陸ホテル観洋・阿部憲子氏）におけるきわめて有意義な議論ののち懇親会へ一同泊まり込みで参加し、翌日は南三陸町の被災地を語り部さんの案内で見回り、その被害の想像を絶する悲惨さを実地に見分した。被災地の復興から再生の道りは遠く、多くの困難・課題が存在するが、われわれもまた少しでも貢献できればと願うものである。

それぞれ大会・部会の準備にあたられた委員長・委員の先生方のご工夫とご尽力のお蔭で、有益な研究報告・講演に接し、また貴重な体験を重ねることができたことは非常に大きな成果であった。ご準備にあたられた委員長・委員先生方にあらためて感謝申しあげる次第である。

また、これらの大会・部会の報告のなかから、査読を経て優れた論文が本誌に掲載された。このなかからさらに来年の全国大会で学会奨励賞が授与される。社会関連会計研究の一層の発展が期待されるところである。

2012年11月